

第2章 道路緑化樹木の推移

2.1 調査の目的

国土交通省、都道府県、市町村、地方道路公社が管理する全国の道路緑化樹木の本数や使用する樹種の推移を把握し、道路緑化に関する基礎資料とすることを目的とした。

2.2 調査の方法

本章では、道路緑化樹木現況調査の対象範囲を全国に広げた1987年（昭和63年）以降の道路緑化樹木現況調査結果を中心にデータを集計・比較して解析を行った。各年の調査の方法は「第1章 道路緑化樹木現況調査」の「1.2 方法」と同様である。

2.3 調査の結果

2.3.1 本数の推移

全国の高木および中低木の本数について、5年毎の推移を図-2.1、図-2.2に示した。

高木は、1987年から1992年で107万本、1992年から1997年で143万本、1997年から2002年で58万本増加したが、2002年から2007年では12万本の減少となった。2007年から2012年では8万本の増加に転じたものの、2012年から2017年では再度5万本の減少となり、2017年から2022年ではさらに41万本と大幅の減少となった。

中低木は、1987年から1992年で3,056万本、1992年から1997年で3,856万本、1997年から2002年で484万本、2002年から2007年で754万本、2007年から2012年で27万本、2012年から2017年で94万本の増加となっており、1992年から1997年の3,856万本をピークに増加本数は大幅に減少してきた。そして、2017年から2022年では586万本の減少に転じた。なお、1997年調査から中低木の調査票に地被類が含まれるようになり、2007年調査までは中低木の集計に含めてきたが、ササ類やシバなどの草本を中低木として本数で計上することには違和感があることから、2012年調査時にはササ類、シバとシバザクラの草本を除いて集計している。さらに、前回からはマンネグサ類、イワダレソウ類も集計から除いた。そのため、本数の推移をみるために1997年、2002年、2007年、2012年の中低木総本数からもこれらを除いてグラフを作成している。

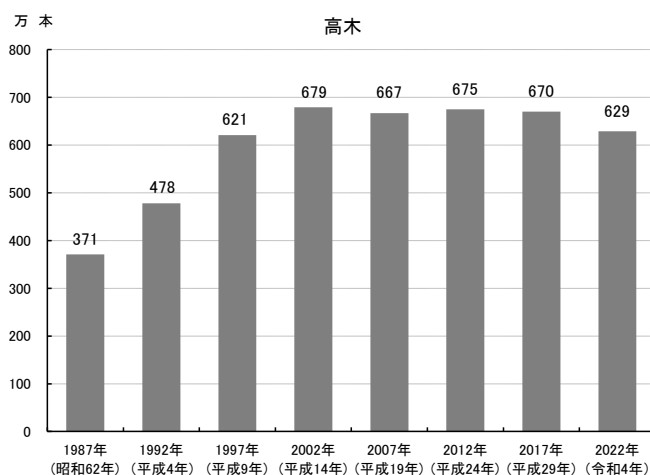


図-2.1 全国の高木本数の推移

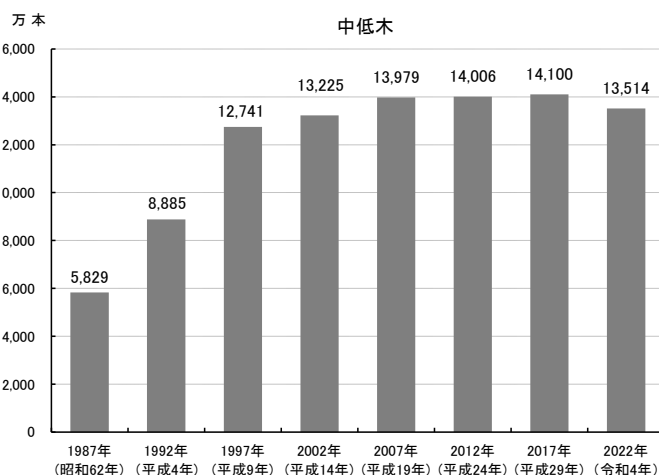


図-2.2 全国の中低木本数の推移

道路延長あたりの高木および中低木の本数について、5年毎の推移を図-2.3、図-2.4に示した。

高木は、1987年から1992年で0.8本/km、1992年から1997年で1.1本/km、1997年から2002年で0.4本/km増加したが、2002年から2007年では0.2本/kmの減少、2007年から2012年では5.6本/kmと変わらなかった。しかし、2012年から2017年では0.1本/kmの減少がみられ、2017年から2022年では0.3本/kmとさらに減少した。

中低木は、1987年から1992年で26.2本/km、1992年から1997年で31.8本/km、1997年から2002年で6.7本/km、2002年から2007年で0.2本/kmの増加となっており、1992年から1997年の31.8本/kmをピークに増加本数は減少傾向にあった。その後、2007年から2012年で1.8本/km、2012年から2017年で0.1本/kmの減少となり、2017年から2022年では5.3本/kmと大幅に減少した。

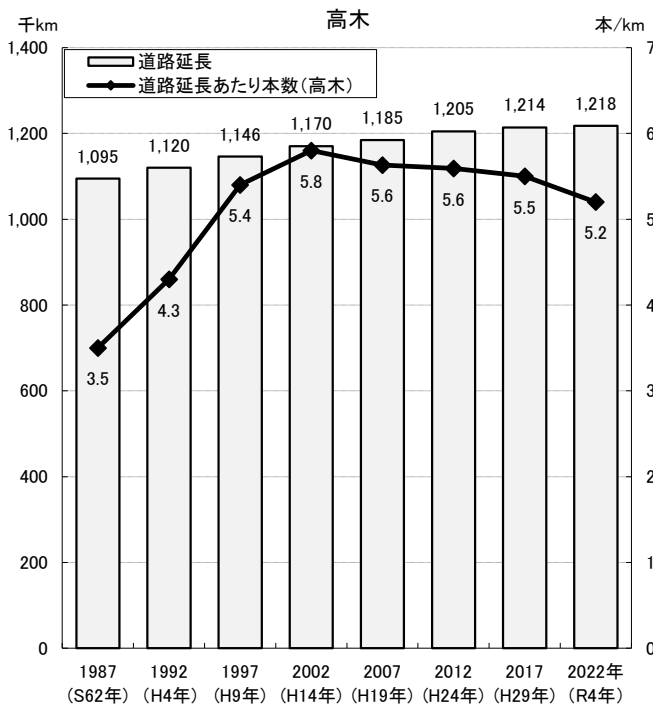


図-2.3 道路延長あたりの高木本数の推移

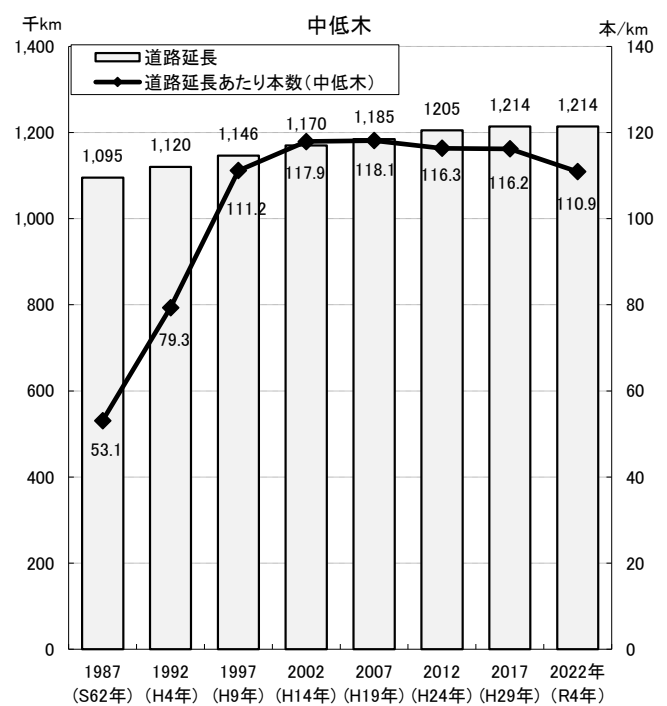


図-2.4 道路延長あたりの中低木本数の推移

2.3.2 樹種の推移

(1) 全国

道路緑化に使用されている上位 10 種の 5 年毎の推移と調査開始時に上位にあった主要樹種の推移を、高木については表 -2.1、図 -2.5、中低木については表 -2.2、図 -2.6 に示した。

高木では、イチョウ、サクラ類、ケヤキ、トウカエデ、クスノキ、ナナカマドの 6 種は、1987 年以降 35 年間上位 10 種に入っていた。なかでもイチョウ、サクラ類、ケヤキの 3 種は、1992 年以降変わらず上位 3 種を占めていた。ただし、イチョウとケヤキは 2012 年以降に減少が続いており、イチョウについてはサクラ類とほぼ同数にまで落ち込んだ。4 位以降については順位が変化してきているが、近年の特徴としては、1987 年に 3 位で 2012 年に 10 位まで順位を下げたプラタナス類の本数がさらに減少して今回では 14 位まで順位を落としたことと、1987 年に 22 位であったハナミズキの本数が著しく増加し、1997 年に上位 10 種（7 位）に入ると 2002 年には 4 位まで順位を上げ、今回まで維持したことがあげられる。

高木の総本数は、1987 年以降の 35 年間で 1.7 倍に増加したが、35 年間上位 10 種に入っている 6 種のうち、高木全体よりも本数の増加率が高いものはケヤキ（3.4 倍）、クスノキ（2.0 倍）、サクラ類（2.0 倍）である。イチョウは変わらず 1 位ではあるものの増加率は高くはなく（1.1 倍）、2 位のサクラ類との差が 1987 年の約 23 万本からほとんどなくなった（22 本）。なお、今回 10 位以下に順位を下げたプラタナス類については 35 年間で本数が半分以下に減少（0.4 倍）した。

総本数が減少しているなか、前回調査から本数を維持している樹種としてサクラ類と日本産カエデ類があげられるが、減少していない要因として、サクラ類は病虫害を受けやすいものの日本を象徴する花木であり、北海道から九州まで多くの自治体で名所となっている並木が多いこと、日本産カエデ類は紅葉が美しいことと樹高があまり大きくならない種であることが考えられる。また、上位で減少がみられるイチョウやケヤキについては、樹木の生育環境としては不適な道路空間において定期的で強めな剪定を受けても比較的良好な生育ができることや、新緑や紅葉の季節毎の美しさや整然とした樹形による景観を形成できることでシンボルとして多用されてきた。しかしながら本数が上位である

表 -2.1 道路緑化樹木（高木）の上位 10 種の推移

順位	1987(昭和62)年		1992(平成4)年		1997(平成9)年		2002(平成14)年		2007(平成19)年	
	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)
1	イチョウ	486	イチョウ	552	イチョウ	591	イチョウ	619	イチョウ	572
2	サクラ類	260	サクラ類	346	サクラ類	428	サクラ類	520	サクラ類	494
3	プラタナス類	258	ケヤキ	305	ケヤキ	412	ケヤキ	476	ケヤキ	478
4	トウカエデ	238	トウカエデ	281	トウカエデ	317	ハナミズキ	343	ハナミズキ	333
5	ケヤキ	133	プラタナス類	251	クスノキ	247	トウカエデ	330	トウカエデ	317
6	カシ類	129	クスノキ	193	プラタナス類	229	クスノキ	286	クスノキ	271
7	クスノキ	128	ナナカマド	162	ハナミズキ	210	プラタナス類	205	モミジバフウ	196
8	ナナカマド	110	日本産カエデ類	140	ナナカマド	193	ナナカマド	196	ナナカマド	196
9	シダレヤナギ	109	モミジバフウ	120	シラカシ	179	サザンカ類	176	プラタナス類	163
10	ニセアカシア	106	マテバシイ	112	日本産カエデ類	144	モミジバフウ	149	日本産カエデ類	150
	総本数	3,708	総本数	4,785	総本数	6,208	総本数	6,786	総本数	6,675

順位	2012(平成24)年		2017(平成29)年		2022(令和4)年		対前回調査割合(%)
	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	
1	イチョウ	570	イチョウ	547	イチョウ	521	95
2	サクラ類	522	サクラ類	520	サクラ類	521	100
3	ケヤキ	487	ケヤキ	462	ケヤキ	448	97
4	ハナミズキ	360	ハナミズキ	362	ハナミズキ	353	98
5	トウカエデ	321	トウカエデ	312	トウカエデ	297	95
6	クスノキ	276	クスノキ	261	クスノキ	256	98
7	ナナカマド	196	ナナカマド	189	日本産カエデ類	185	101
8	日本産カエデ類	183	日本産カエデ類	183	ナナカマド	165	87
9	モミジバフウ	170	モミジバフウ	173	モミジバフウ	156	90
10	プラタナス類	149	クロガネモチ	148	クロガネモチ	147	99
	総本数	3,708	総本数	4,785	総本数	6,288	94

ものの減少している要因としては、植栽後 30 年以上経過したことにより大径木化した樹体が、都市の道路空間では狭小となったことで過密化や道路交通への支障が生じていることなどが考えられる。また、プラタナス類が本数を減らした要因として、成長が旺盛で剪定に手間がかかることや、剪定傷口などから腐朽菌が侵入して材が腐朽して倒れやすいなど、一般的に管理がしにくいと考えられる。今回は若干減少がみられるハナミズキは、花や紅葉の美しさに加え、樹高があまり高くならずに管理をしやすいなどの長所をもつため、今後も関東の都市部を中心に本数を維持していくと考えられる。トウカエデは、紅葉が美しいことと剪定後に再生する枝があまり横に広がらずに道路交通に支障が生じにくいことから上位を維持していると考えられる。

中低木では、上位 3 種がツツジ類、シャリンバイ類、アベリア類で 1987 年以降の 40 年間で変動がない。また、サザンカ類は 1997 年を除き 4 位を維持している。5 位以降は順位が変化しているが、2007 年以降ドウダンツツジ類、ヘデラ類、セイヨウツゲ、ヒペリカム類、イヌツゲ類、ハマヒサカキが安定している。

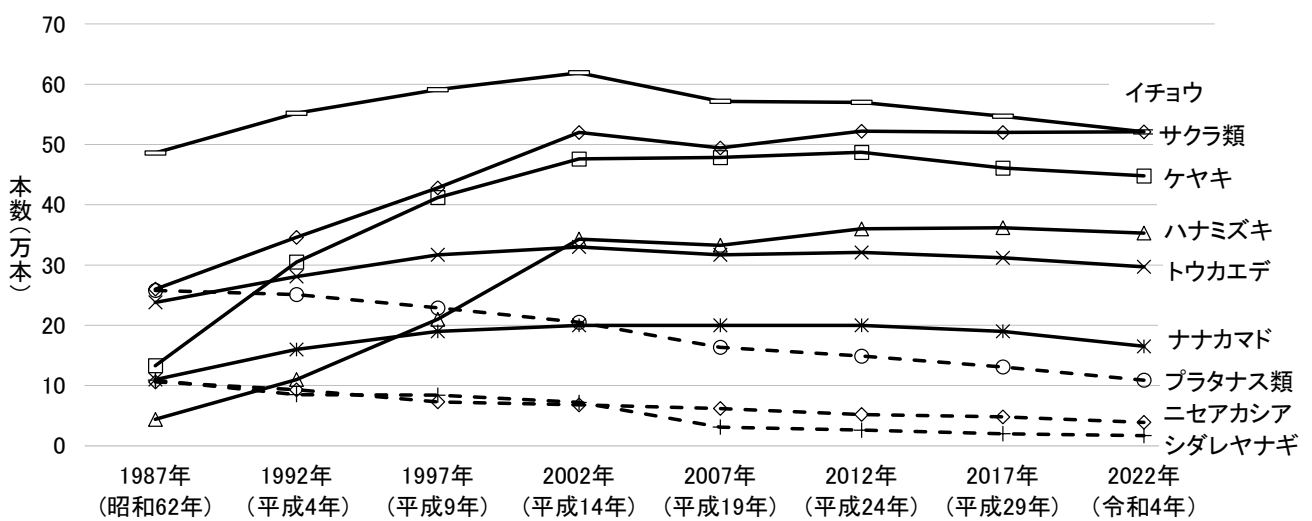


図-2.5 道路緑化樹木（高木）の上位樹種の推移

表-2.2 道路緑化樹木（中低木）の上位 10 種の推移

順位	1987(昭和62)年		1992(平成4)年		1997(平成9)年		2002(平成14)年		2007(平成19)年	
	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)
1	ツツジ類	25,107	ツツジ類	37,578	ツツジ類	54,574	ツツジ類	61,532	ツツジ類	61,449
2	シャリンバイ	4,971	シャリンバイ	7,057	シャリンバイ	8,754	シャリンバイ	8,945	シャリンバイ	9,519
3	アベリア	3,756	アベリア類	6,369	アベリア類	8,352	アベリア類	8,608	アベリア類	9,486
4	サザンカ類	2,542	サザンカ類	3,851	ツゲ類	6,910	サザンカ類	5,195	サザンカ類	5,578
5	ツゲ類	2,330	ツゲ類	3,322	サザンカ類	3,778	ヘデラ類	5,154	ヘデラ類	5,079
6	イヌツゲ	1,428	ドウダンツツジ類	2,027	ドウダンツツジ類	2,758	ホンツツジ類	4,601	ドウダンツツジ類	4,648
7	ハマヒサカキ	1,294	イヌツゲ類	1,937	トベラ類	2,742	ドウダンツツジ類	4,331	セイヨウツゲ	4,484
8	トベラ	1,249	トベラ	1,757	ヘデラ類	2,356	ヒペリカム類	2,789	イヌツゲ類	3,048
9	ウバメガシ	1,067	ハマヒサカキ	1,692	ハマヒサカキ	2,170	イヌツゲ類	2,713	ヒペリカム類	2,750
10	ネズミモチ	888	ネズミモチ類	1,337	ウバメガシ	1,921	ハマヒサカキ	2,046	ハマヒサカキ	2,009
	総本数	58,288	総本数	88,852	総本数	127,451	総本数	132,252	総本数	139,785

順位	2012(平成24)年		2017(平成29)年		2022(令和4)年		対前回調査 割合(%)
	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	樹種名	本数(千本)	
1	ツツジ類	62,083	ツツジ類	62,748	ツツジ類	59,155	94
2	シャリンバイ	9,447	シャリンバイ	9,732	シャリンバイ類	9,396	97
3	アベリア類	9,247	アベリア類	9,309	アベリア類	9,015	97
4	サザンカ類	5,461	サザンカ類	5,288	サザンカ類	5,194	98
5	ドウダンツツジ類	4,541	ドウダンツツジ類	4,672	ドウダンツツジ類	4,456	95
6	セイヨウツゲ	3,604	セイヨウツゲ	3,710	ヘデラ類	3,699	108
7	ヘデラ類	3,471	ヘデラ類	3,441	セイヨウツゲ	3,537	95
8	ヒペリカム類	2,953	ヒペリカム類	2,887	ヒペリカム類	2,711	94
9	イヌツゲ類	2,900	イヌツゲ類	2,809	イヌツゲ類	2,390	85
10	ハマヒサカキ	2,050	ハマヒサカキ	1,987	ハマヒサカキ	1,937	98
	総本数	140,061	総本数	140,999	総本数	135,139	96

中低木の総本数は、1987年以降の35年間に於いて2.3倍に増加し、1位のツツジ類もこの間2.4倍に増加したが、2002年までの急増後は横ばい状態が続き、今回は前回から約359万本の減少となった。ツツジ類は35年間に於いて常に総本数の約4割を占めてきたが、多用される原因としては花の美しさに加えて病虫害に強く、強剪定に耐えて管理が容易であることなどが考えられる。なお、本数が減少している原因としては、植栽してから長期間が経過して樹体が大きくなったことで見通しの障害となったものや樹勢が衰退したものが撤去されたこと、また高木を伐採する際に根元に植栽されている低木が同時に撤去されたことなどが推測される。

高木の樹種数と上位樹種が占める本数割合について推移を図-2.7に示した。全国調査の始まった1987年からは、上位5種が全体本数の3割強、上位10種が全体本数の5割前後を占めて推移しており変化が小さい。なお、総樹種数については、樹種区分(2種以上をまとめて「類」で表記する等)に変化があるため増減がある。

高木について、1987年以降の30年間に於ける上位樹種の変動と樹種の多様性の推移を、地域毎で表-2.3～表-2.12及び図-2.8～図-2.17に示した。なお、本数の変動が著しい調査年については、調査時の誤集計が考えられたため、図の折れ線グラフには含めていない。

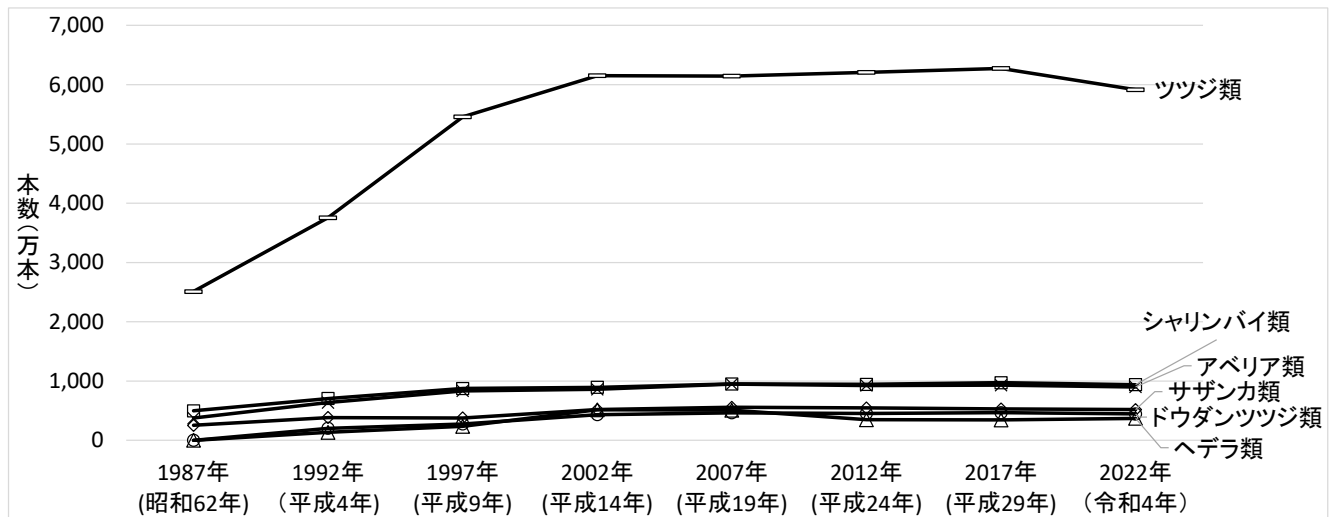


図-2.6 道路緑化樹木(中低木)の上位樹種の推移

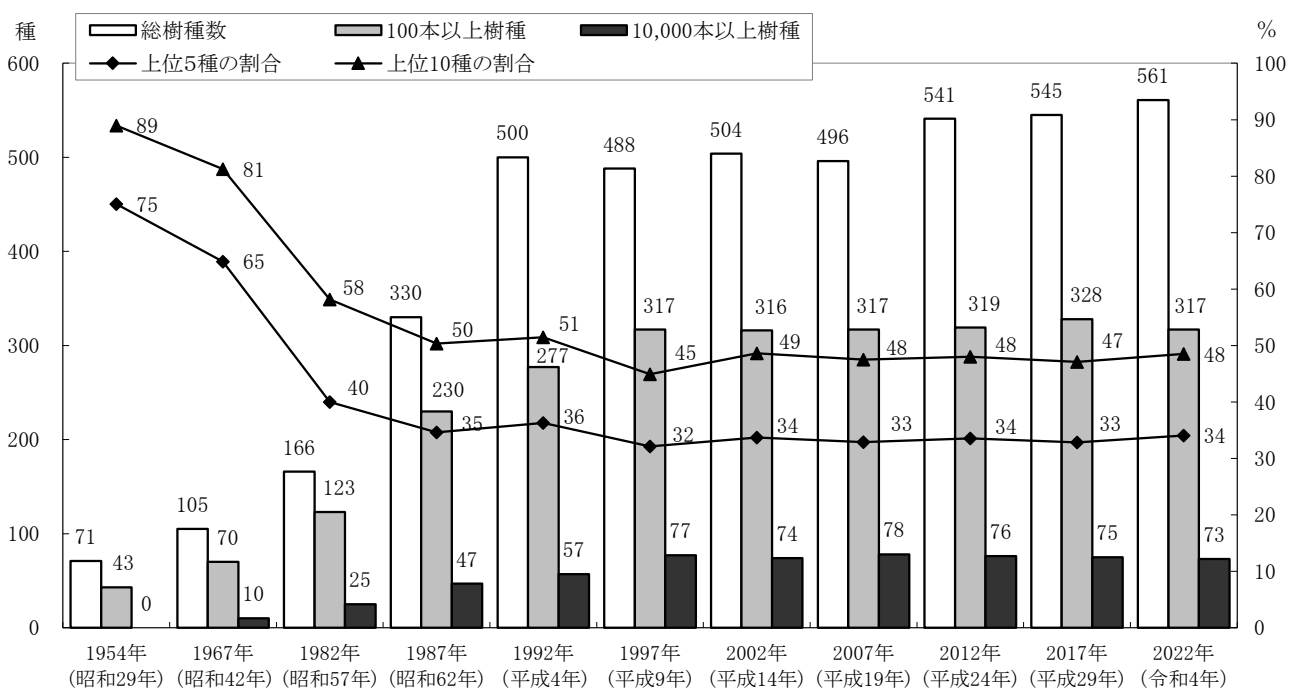


図-2.7 高木における樹種数と上位樹種が占める本数割合の推移

(2) 地域別

北海道は、ナナカマドが当初から 1 位を継続して高い割合を示してきたが、今回は減少した。また、2007 年以降にアカエゾマツ、ヤナギ類、日本産カエデ類が増加し、ニセアカシアが減少している。ニセアカシアはやせ地でも成長がよいことから多用されてきたが、木材腐朽病による倒木が増えていることが影響していると考えられる。ナナカマド、アカエゾマツ、ハルニレ、シラカンバなど北海道の地域特性に合った樹種が選択されている。1987 年以降、上位 5 種の割合は 5 割台から 4 割台へ、上位 10 種の割合は 7 割台から 6 割台に低下し、樹種の多様化の傾向がみられる。

東北は、1997 年以降の 25 年間でケヤキ、サクラ類、イチヨウが上位 3 種を占めていたものの、ケヤキ、イチヨウの本数は前回から減少がみられた。また、6 位のナナカマドも 2002 年をピークに減少が著しい。1987 年以降、上位 5 種の割合は 5 割台から 4 割台へ、上位 10 種の割合は 7 割台から 6 割台に低下し、樹種の多様化の傾向がみられる。

関東は、イチヨウが当初から 1 位を継続しているものの、2002 年の 22 万本をピークに減少傾向となり今回は 17 万本まで低下した。一方で、ハナミズキは 35 年間で本数が 5 倍以上に増加したが近年は横ばい傾向にあるものの、減少してきたイチヨウとの差が小さくなっている。サクラ類は 2～3 位を維持しているが、2002 年に当初の 2 倍近くまで増加したものの、イチヨウ同様に減少傾向を示している。プラタナス類は、1982 年から 2022 年にかけて本数が約半減した。上位 5 種の割合は 4 割台、上位 10 種では 6 割前後で安定している。

北陸は、35 年間でケヤキが 4.1 倍と増加が著しいものの 2012 年からの 10 年間は減少傾向にある。また、イチヨウもこの 10 年間で減少傾向にある。35 年間ではサクラ類、ハナミズキの増加が目立っているが、前回に比較すると上位 10 種はすべてが減少した。1987 年以降、上位 5 種の割合は 6 割台から 4 割台へ、上位 10 種の割合は 9 割台から 6 割台に低下し、樹種の多様化の傾向がみられる。

中部は、1987 年から 1 位、2 位のイチヨウとトウカエデが拮抗しているが、両種ともに前回から減少しており、上位 10 種のうち増加が見られたのはケヤキのみであった。全本数に占める割合は上位 5 種が 4 割台、上位 10 種が 6 割台で安定している。

近畿は、35 年間で本数の伸びが著しいのは当初の 2 倍となったケヤキ、1.9 倍のクスノキ、1.6 倍のサクラ類であり、この 3 種とシラカシ、ハナミズキは前回よりも本数を増加あるいは維持している。サザンカ類は前回から大幅に減少しているが、これは高木で集計していたものを中低木に変えたことによるものである。上位 5 種の割合は 4 割前後、上位 10 種では 6 割前後で安定している。

中国は、モミジバフウが最も多いことが特徴的であるが、上位 4 種にあるケヤキ、クスノキ、サクラ類ともに前回から本数が減少している。このうちケヤキは、35 年間で 3 倍の本数となっているものの前回からの減少本数が多かった。なお、1987 年に 1 位だったプラタナス類は徐々に本数を減らして 35 年間で 4 割程度まで減少した。全本数に占める割合は上位 5 種が 4 割前後、上位 10 種が 6 割前後で安定している。

四国は、クスノキが上位を維持して 35 年間で 2.3 倍まで増加しているものの、2007 年をピークに減少傾向にある。モミジバフウも上位にあったが、クロガネモチとサクラ類が微増しているなかで順位を下げている。上位 5 種の割合は 4 割前後、上位 10 種の割合は 6 割前後で安定している。

九州は、サクラ類が最も多く 2002 年までの 15 年間で 2.4 倍に増加したまま現状を維持している。その一方でケヤキが 2012 年からの 10 年間で減少傾向にある。また、1987 年に 1 位のイチヨウは 2002 年から減少傾向となりで今回は 5 位にまで順位を落とした。全本数に占める割合は上位 5 種が 4 割台、上位 10 種が 6 割台で安定している。

沖縄は、上位 10 種が亜熱帯性樹種と他の地域と全く異なっている。フクギ、リュウキュウコクタン、リュウキュウマツの上位 3 種は、2007 年からの 15 年間でその位置を維持し今回も増加がみられた。35 年間での増加率はリュウキュウコクタンが 6.7 倍、フクギが 5.9 倍、リュウキュウマツが 4.3 倍と著しく高い。全本数に占める割合は上位 5 種が 4 割台、上位 10 種が 6 割台で安定しており、樹種は全く異なっているが、上位樹種の占める割合は他の地域と同じ水準となっている。

表-2.3 高木上位10種の推移（北海道）

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	ナナカマド	90,530	20	ナナカマド	ナナカマド	ナナカマド	ナナカマド	ナナカマド	ナナカマド
2	ニセアカシア	49,808	11	イチヨウ	日本産カエデ類	イチヨウ	イチヨウ	アカエゾマツ	アカエゾマツ
3	ブラタナス類	44,870	10	日本産カエデ類	イチヨウ	サクラ類	サクラ類	日本産カエデ類	ヤナギ類
4	イチヨウ	38,279	8	ニセアカシア	アカエゾマツ	日本産カエデ類	アカエゾマツ	イチヨウ	日本産カエデ類
5	カエデ類	31,500	7	ブラタナス類	サクラ類	ハルニレ	日本産カエデ類	サクラ類	イチヨウ
6	サクラ類	30,304	7	サクラ類	ブラタナス類	ブラタナス類	ハルニレ	ヤナギ類	サクラ類
7	シラカンバ	22,330	5	シラカンバ	ニセアカシア類	ニセアカシア	ニセアカシア	ハルニレ	ハルニレ
8	マツ類	16,345	4	ハルニレ	ハルニレ	アカエゾマツ	ブラタナス類	シラカンバ	シラカンバ
9	ニレ類	15,394	3	アカマツ・クロマツ類	シラカンバ	ブンゲンストウヒ	シラカンバ	ブラタナス類	ブラタナス類
10	クロマツ	13,178	3	アカエゾマツ	アカマツ・クロマツ類	シラカンバ	ブンゲンストウヒ	ニセアカシア	トドマツ
総本数	461,507			652,035	864,945	856,791	961,296	1,042,510	1,072,801
上位5種	55%			49%	44%	41%	41%	44%	46%
上位10種	76%			71%	65%	62%	61%	64%	66%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	ナナカマド	131,532	12
2	アカエゾマツ	111,010	11
3	日本産カエデ類	89,835	9
4	ヤナギ類	82,671	8
5	サクラ類	69,100	7
6	イチヨウ	67,102	6
7	ハルニレ	45,481	4
8	シラカンバ	38,452	4
9	トドマツ	34,567	3
10	ブラタナス類	30,961	3
総本数	1,052,490		
上位5種	46%		
上位10種	67%		

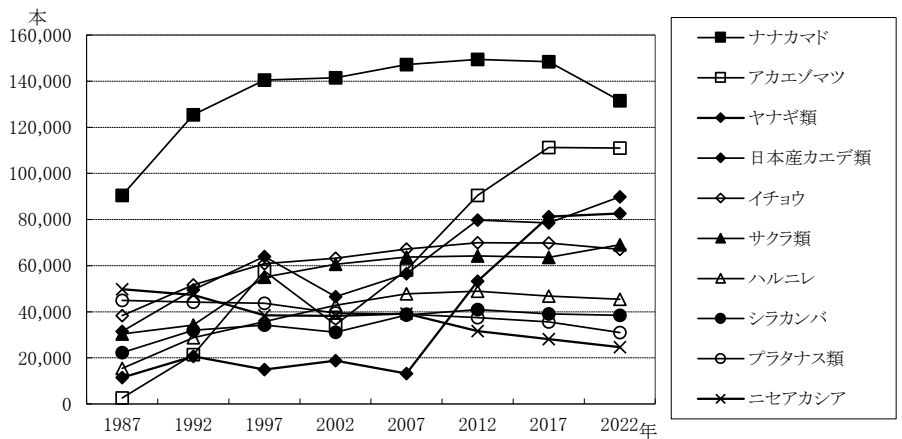


図-2.8 主要樹種本数の経年変化（北海道）

表-2.4 高木上位10種の推移（東北）

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	イチヨウ	34,133	16	イチヨウ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ
2	ケヤキ	22,434	11	日本産カエデ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類
3	トウカエデ	21,812	10	ケヤキ	イチヨウ	イチヨウ	イチヨウ	イチヨウ	イチヨウ
4	サクラ類	17,211	8	トウカエデ	ナナカマド	ナナカマド	ナナカマド	トウカエデ	トウカエデ
5	ブラタナス類	15,984	8	ブラタナス類	トウカエデ	トウカエデ	トウカエデ	ナナカマド	ナナカマド
6	ナナカマド	11,947	6	ナナカマド	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ
7	カイズカイブキ	8,873	4	サクラ類	ブラタナス類	ユリノキ	ユリノキ	ユリノキ	ユリノキ
8	ユリノキ	8,738	4	エンジュ	ユリノキ	ブラタナス類	日本産カエデ類	日本産カエデ類	日本産カエデ類
9	カエデ類	8,542	4	ユリノキ	サワラ類	日本産カエデ類	ブラタナス類	ヤマボウシ	ヤマボウシ
10	シダレヤナギ	7,442	4	イブキ類	カツラ	ヤマボウシ	アカマツ・クロマツ類	アカマツ・クロマツ類	アカマツ・クロマツ類
総本数	207,889			358,722	393,173	447,031	439,338	456,942	439,598
上位5種	54%			47%	48%	47%	45%	45%	45%
上位10種	76%			70%	66%	65%	61%	61%	62%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	ケヤキ	50,568	12
2	サクラ類	48,844	12
3	イチヨウ	35,252	9
4	トウカエデ	30,977	7
5	ハナミズキ	27,612	7
6	ナナカマド	22,759	5
7	ユリノキ	11,171	3
8	ヤマボウシ	10,828	3
9	日本産カエデ類	10,742	3
10	シラカン	10,532	3
総本数	414,227		
上位5種	47%		
上位10種	63%		

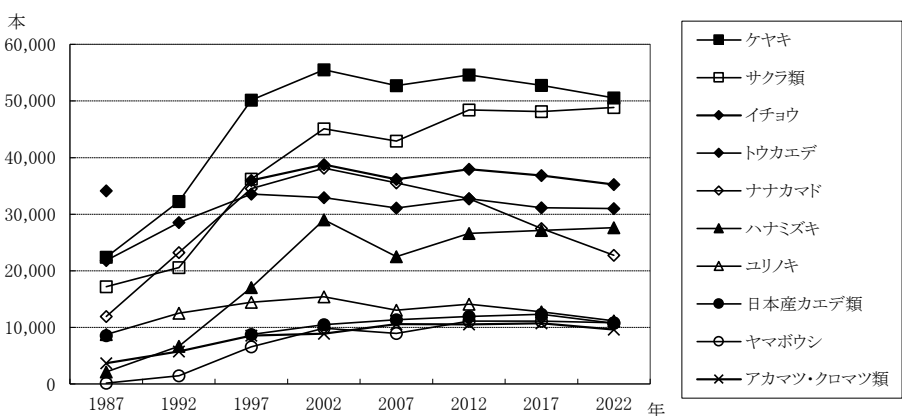


図-2.9 主要樹種本数の経年変化（東北）

表 -2.5 高木上位 10 種の推移 (関東)

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	イチョウ	176,465	18	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ
2	ブラタナス類	77,142	8	サクラ類	サクラ類	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ
3	サクラ類	80,506	8	ケヤキ	ハナミズキ	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類
4	トウカエデ	75,074	8	トウカエデ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ
5	ケヤキ	62,539	6	ブラタナス類	トウカエデ	トウカエデ	トウカエデ	トウカエデ	トウカエデ
6	マテバシイ	45,328	5	ハナミズキ	ブラタナス類	ブラタナス類	マテバシイ	マテバシイ	ユリノキ
7	エンジュ	39,259	4	ユリノキ	ユリノキ	マテバシイ	ユリノキ	ユリノキ	マテバシイ
8	ユリノキ	37,160	4	マテバシイ	マテバシイ	クスノキ	ブラタナス類	クスノキ	クスノキ
9	ハナミズキ	30,100	3	エンジュ	クスノキ	ユリノキ	クスノキ	ブラタナス類	ブラタナス類
10	シダレヤナギ	26,737	3	クスノキ	エンジュ類	エンジュ	キョウチクトウ	モミジバフウ	モミジバフウ
総本数	966,802			1,214,647	1,375,186	1,849,807	1,662,598	1,623,897	1,614,586
上位 5 種	49%			45%	45%	43%	41%	43%	43%
上位 10 種	67%			65%	64%	61%	58%	59%	58%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	イチョウ	173,366	11
2	ハナミズキ	165,877	11
3	サクラ類	135,737	9
4	ケヤキ	105,997	7
5	トウカエデ	88,202	6
6	ユリノキ	52,645	3
7	マテバシイ	51,897	3
8	クスノキ	50,508	3
9	ブラタナス類	37,391	2
10	モミジバフウ	33,563	2
総本数	1,527,199		
上位 5 種	44%		
上位 10 種	59%		

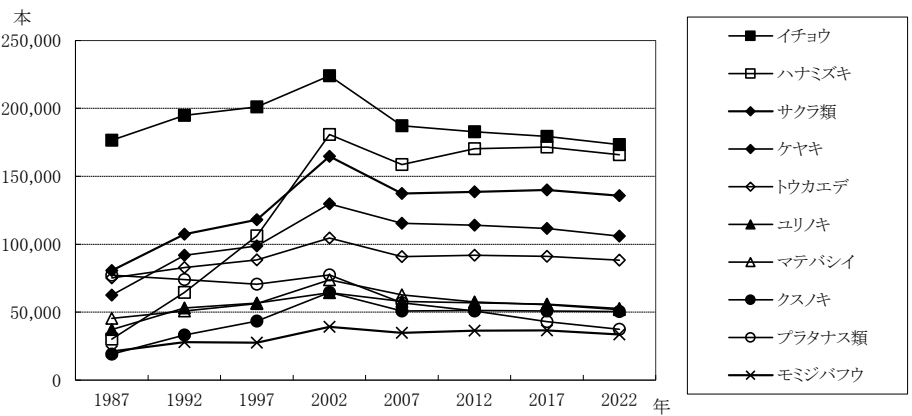


図 -2.10 主要樹種本数の経年変化 (関東)

表 -2.6 高木上位 10 種の推移 (北陸)

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	イチョウ	22,773	23	イチョウ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ
2	トウカエデ	11,650	12	ケヤキ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	サクラ類
3	ケヤキ	10,248	10	サクラ類	アカマツ・クロマツ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類	イチョウ
4	ブラタナス類	9,852	10	アカマツ・クロマツ類	トウカエデ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ
5	サクラ類	9,522	9	トウカエデ	サクラ類	トウカエデ	アカマツ・クロマツ類	アカマツ・クロマツ類	アカマツ・クロマツ類
6	ニセアカシア	8,473	8	モミジバフウ	ハナミズキ	アカマツ・クロマツ類	トウカエデ	トウカエデ	トウカエデ
7	モミジバフウ	6,479	6	ブラタナス類	ブラタナス類	ユリノキ	モミジバフウ	モミジバフウ	モミジバフウ
8	シダレヤナギ	5,846	6	シダレヤナギ	ユリノキ	ブラタナス類	サルスベリ類	サルスベリ類	サルスベリ類
9	ユリノキ	4,443	4	ユリノキ	ナナカマド	モミジバフウ	シラカシ	ヤマボウシ	ヤマボウシ
10	カイヅカイブキ	3,555	4	ニセアカシア	ヤナギ類	ヤマボウシ	ヤマボウシ	エンジュ	シラカシ
総本数	101,131			149,867	232,066	238,333	270,126	288,820	284,966
上位 5 種	63%			55%	46%	47%	47%	47%	47%
上位 10 種	92%			73%	61%	60%	62%	62%	63%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	ケヤキ	41,999	16
2	サクラ類	27,583	10
3	イチョウ	22,469	8
4	ハナミズキ	20,508	8
5	アカマツ・クロマツ類	11,261	4
6	トウカエデ	10,009	4
7	サルスベリ類	9,226	3
8	ヤマボウシ	8,591	3
9	シラカシ	7,414	3
10	モミジバフウ	7,362	3
総本数	268,647		
上位 5 種	46%		
上位 10 種	62%		

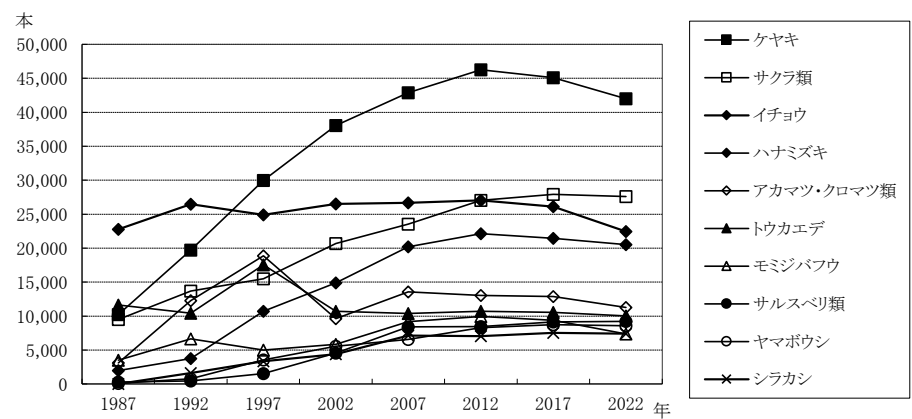


図 -2.11 主要樹種本数の経年変化 (北陸)

表-2.7 高木上位10種の推移(中部)

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	イチョウ	59,697	12	イチョウ	イチョウ	トウカエデ	トウカエデ	イチョウ	トウカエデ
2	トウカエデ	49,243	10	トウカエデ	トウカエデ	イチョウ	イチョウ	トウカエデ	イチョウ
3	サクラ類	39,977	8	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類
4	プラタナス類	32,220	7	ケヤキ	ケヤキ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ
5	ナンキンハゼ	21,855	4	ナンキンハゼ	ハナミズキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ
6	ケヤキ	18,498	4	プラタナス類	ナンキンハゼ	ナンキンハゼ	ナンキンハゼ	ナンキンハゼ	ナンキンハゼ
7	シダレヤナギ	16,180	3	クスノキ	クスノキ	クスノキ	モミジバフウ	クスノキ	クスノキ
8	マテバシイ	12,980	3	日本産カエデ類	プラタナス類	シラカシ	クスノキ	モミジバフウ	モミジバフウ
9	アオギリ	12,711	3	ハナミズキ	日本産カエデ類	モミジバフウ	シラカシ	シラカシ	シラカシ
10	クスノキ	12,193	3	モミジバフウ	モミジバフウ	日本産カエデ類	日本産カエデ類	日本産カエデ類	日本産カエデ類
総本数	486,938			648,813	843,480	850,643	869,317	910,879	905,249
上位5種	42%			43%	36%	38%	39%	39%	39%
上位10種	57%			60%	53%	56%	58%	59%	59%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	トウカエデ	76,652	9
2	イチョウ	73,973	8
3	サクラ類	69,438	8
4	ハナミズキ	67,571	8
5	ケヤキ	57,336	7
6	ナンキンハゼ	38,536	4
7	クスノキ	34,871	4
8	シラカシ	33,682	4
9	モミジバフウ	31,672	4
10	クロガネモチ	28,635	3
総本数	879,552		
上位5種	39%		
上位10種	58%		

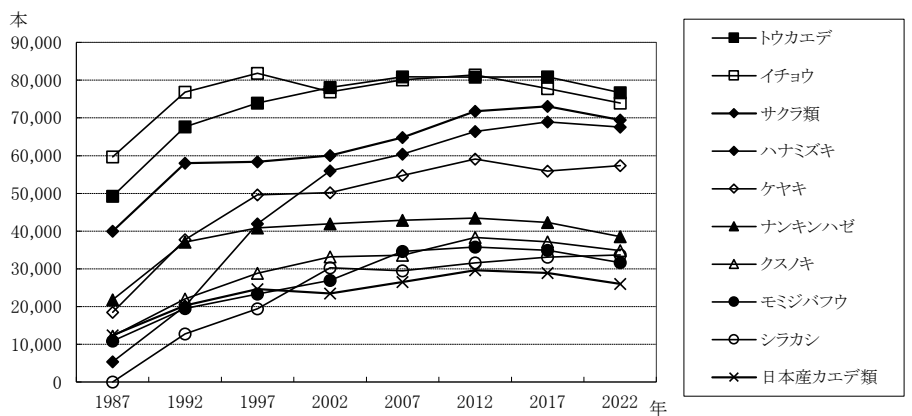


図-2.12 主要樹種本数の経年変化(中部)

表-2.8 高木上位10種の推移(近畿)

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	カシ類	107,483	12	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ
2	イチョウ	99,734	11	クスノキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ
3	トウカエデ	57,351	7	ケヤキ	クスノキ	クスノキ	クスノキ	クスノキ	クスノキ
4	クスノキ	48,212	5	トウカエデ	トウカエデ	サザンカ類	トウカエデ	トウカエデ	トウカエデ
5	ケヤキ	48,154	5	カシ類	シラカシ	トウカエデ	サザンカ類	サクラ類	サザンカ類
6	プラタナス類	45,390	5	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サザンカ類	サクラ類
7	ウバメガシ	43,064	5	ウバメガシ	プラタナス類	シラカシ	シラカシ	シラカシ	シラカシ
8	サクラ類	37,570	4	プラタナス類	ナンキンハゼ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ
9	ナンキンハゼ	25,579	3	ナンキンハゼ	アラカシ	ナンキンハゼ	カシ類不明	カシ類	ナンキンハゼ
10	シダレヤナギ	24,861	3	イブキ類	ヤマモモ	ネズミモチ類	ナンキンハゼ	ナンキンハゼ	カシ類
総本数	878,142			853,529	1,131,750	1,099,872	1,101,415	1,118,355	1,097,462
上位5種	41%			38%	39%	41%	40%	40%	37%
上位10種	61%			60%	55%	59%	59%	60%	56%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	ケヤキ	96,001	10
2	クスノキ	91,429	10
3	イチョウ	91,194	10
4	サクラ類	64,582	7
5	トウカエデ	59,369	6
6	シラカシ	43,539	5
7	ハナミズキ	41,034	4
8	ナンキンハゼ	25,742	3
9	クロガネモチ	25,377	3
10	アラカシ	24,755	3
総本数	922,612		
上位5種	44%		
上位10種	61%		

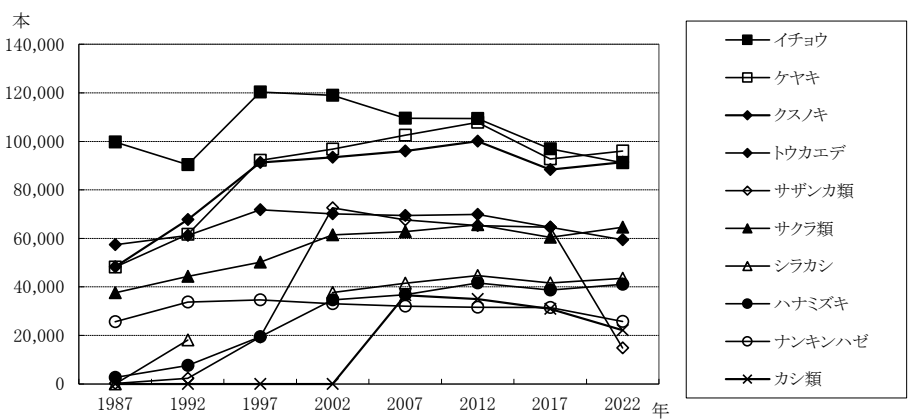


図-2.13 主要樹種本数の経年変化(近畿)

表-2.9 高木上位10種の推移(中国)

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	プラタナス類	17,331	11	クスノキ	シラカシ	サザンカ類	ケヤキ	モミジバフウ	ケヤキ
2	モミジバフウ	16,121	10	モミジバフウ	サクラ類	ケヤキ	モミジバフウ	ケヤキ	モミジバフウ
3	クスノキ	13,188	8	サクラ類	ケヤキ	モミジバフウ	クスノキ	クスノキ	クスノキ
4	イチョウ	11,744	7	プラタナス類	アラカシ	サクラ類	サクラ類	サクラ類	サクラ類
5	ケヤキ	8,530	5	ケヤキ	モミジバフウ	クスノキ	サザンカ類	プラタナス類	イチョウ
6	トウカエデ	7,283	5	イチョウ	クスノキ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	クロガネモチ
7	サクラ類	6,860	4	マテバシイ	サザンカ類	シラカシ	クロガネモチ	クロガネモチ	ハナミズキ
8	カイズカイブキ	6,831	4	ヤマモモ	イチョウ	プラタナス類	プラタナス類	ハナミズキ	プラタナス類
9	マテバシイ	6,211	4	トウカエデ	プラタナス類	クロガネモチ	ヤマモモ	マテバシイ	ヤマモモ
10	アオギリ	6,171	4	クロガネモチ	ウバメガシ	ヤマモモ	マテバシイ	トウカエデ	トウカエデ
総本数	157,838			211,408	441,720	350,850	298,767	271,466	275,272
上位5種	42%			44%	38%	38%	40%	41%	42%
上位10種	64%			64%	56%	54%	58%	60%	60%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	モミジバフウ	26,070	10
2	ケヤキ	25,496	10
3	クスノキ	21,866	9
4	サクラ類	21,211	9
5	イチョウ	11,338	5
6	クロガネモチ	10,685	4
7	ハナミズキ	9,036	4
8	マテバシイ	7,948	3
9	トウカエデ	7,427	3
10	プラタナス類	7,338	3
総本数	248,988		
上位5種	43%		
上位10種	60%		

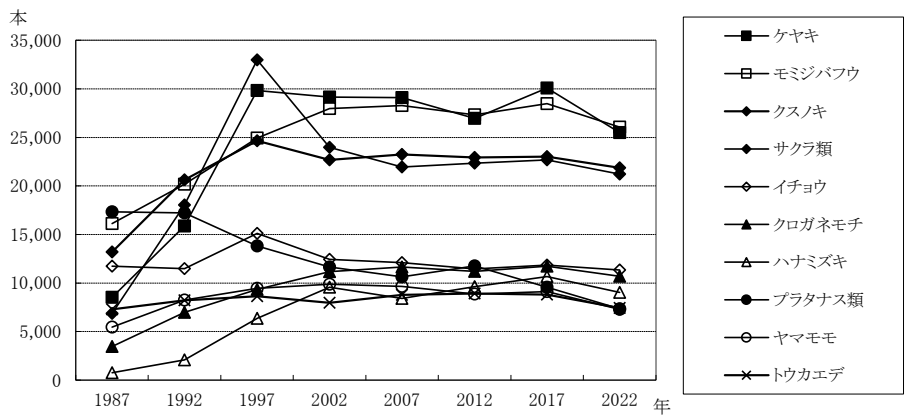


図-2.14 主要樹種本数の経年変化(中国)

表-2.10 高木上位10種の推移(四国)

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	クスノキ	7,226	5	クスノキ	クスノキ	クスノキ	モミジバフウ	クスノキ	クスノキ
2	ヤマモモ	5,666	4	サクラ類	サンゴジュ	ケヤキ	クスノキ	ケヤキ	ケヤキ
3	プラタナス類	5,568	4	ヤマモモ	ケヤキ	ヤマモモ	マテバシイ	モミジバフウ	クロガネモチ
4	モミジバフウ	5,267	4	モミジバフウ	ヤマモモ	モミジバフウ	ケヤキ	クロガネモチ	モミジバフウ
5	イチョウ	4,751	3	トウカエデ	イチョウ	ナンキンハゼ	クロガネモチ	マテバシイ	サクラ類
6	カイズカイブキ	3,821	3	イチョウ	マテバシイ	クロガネモチ	ヤマモモ	ヤマモモ	ヤマモモ
7	マテバシイ	3,625	3	プラタナス類	ナンキンハゼ	マテバシイ	カナメモチ類	サクラ類	マテバシイ
8	シダレヤナギ	3,424	2	マテバシイ	クロガネモチ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ
9	サクラ類	3,239	2	ケヤキ	サクラ類	サクラ類	サクラ類	ナンキンハゼ	ナンキンハゼ
10	トウカエデ	3,202	2	モミジバフウ	モミジバフウ	トウカエデ	ハナミズキ	トウカエデ	トウカエデ
総本数	141,415			99,868	133,418	154,621	233,633	148,115	144,432
上位5種	20%			41%	37%	38%	45%	39%	40%
上位10種	32%			81%	59%	60%	63%	61%	62%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	クスノキ	14,815	11
2	クロガネモチ	10,463	8
3	ケヤキ	10,363	7
4	サクラ類	8,677	6
5	モミジバフウ	8,536	6
6	マテバシイ	6,087	4
7	ヤマモモ	5,856	4
8	イチョウ	5,802	4
9	トウカエデ	5,097	4
10	ホルトノキ	4,665	3
総本数	138,422		
上位5種	38%		
上位10種	58%		

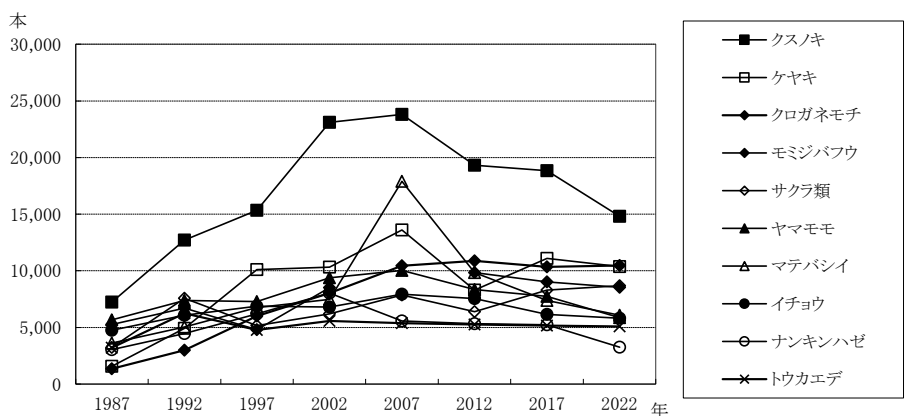


図-2.15 主要樹種本数の経年変化(四国)

表-2.11 高木上位10種の推移(九州)

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	イチョウ	38,001	11	イチョウ	サクラ類	サクラ類	ケヤキ	サクラ類	サクラ類
2	サクラ類	30,197	9	ケヤキ	ケヤキ	ケヤキ	サクラ類	ケヤキ	ケヤキ
3	ホルトノキ	29,271	9	クロガネモチ	クロガネモチ	クロガネモチ	クロガネモチ	クロガネモチ	クロガネモチ
4	クスノキ	26,454	8	サクラ類	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ	イチョウ
5	クロガネモチ	25,757	8	クスノキ	クスノキ	クスノキ	クスノキ	クスノキ	クスノキ
6	ケヤキ	18,852	6	ホルトノキ	ホルトノキ	ホルトノキ	ホルトノキ	ホルトノキ	ホルトノキ
7	カイヅカイブキ	18,830	6	ナンキンハゼ	サザンカ類	サザンカ類	トウカエデ	トウカエデ	トウカエデ
8	ナンキンハゼ	16,837	5	トウカエデ	トウカエデ	ナンキンハゼ	ハナミズキ	ハナミズキ	ハナミズキ
9	ヤシ類	12,399	4	イブキ類	ナンキンハゼ	トウカエデ	ナンキンハゼ	ナンキンハゼ	モミジバフウ
10	トウカエデ	12,101	4	モミジバフウ	ツバキ類	モミジバフウ	モミジバフウ	モミジバフウ	ヤマモモ
総本数	334,479			431,208	572,771	680,418	586,932	626,004	609,688
上位5種	45%			45%	41%	43%	46%	45%	44%
上位10種	68%			68%	61%	61%	64%	62%	61%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	サクラ類	70,624	12
2	ケヤキ	59,234	10
3	クロガネモチ	54,703	9
4	クスノキ	40,820	7
5	イチョウ	40,579	7
6	ホルトノキ	27,317	5
7	トウカエデ	19,575	3
8	ハナミズキ	17,334	3
9	モミジバフウ	16,372	3
10	ナンキンハゼ	16,311	3
総本数	581,504		
上位5種	46%		
上位10種	62%		

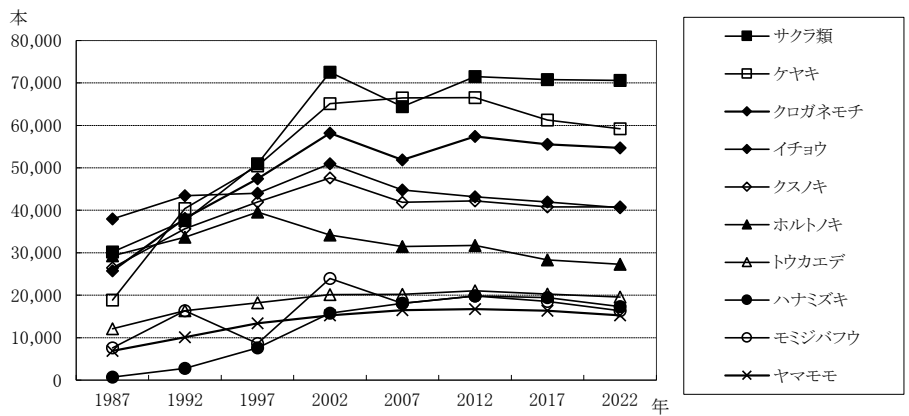


図-2.16 主要樹種本数の経年変化(九州)

表-2.12 高木上位10種の推移(沖縄)

順位	1987(昭和62)年			1992(平成4)年	1997(平成9)年	2002(平成14)年	2007(平成19)年	2012(平成24)年	2017(平成29)年
	樹種名	本数	割合	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名	樹種名
1	ネズミモチ	16,180	14	テリハボク	リュウキュウマツ	リュウキュウマツ	フクギ	フクギ	フクギ
2	ヤシ類	12,182	10	リュウキュウマツ	テリハボク	フクギ	リュウキュウマツ	リュウキュウマツ	リュウキュウマツ
3	ガジュマル	10,024	9	フクギ	フクギ	テリハボク	リュウキュウマツ	リュウキュウマツ	リュウキュウマツ
4	テリハボク	7,503	6	リュウキュウマツ	リュウキュウマツ	リュウキュウマツ	テリハボク	テリハボク	テリハボク
5	イスノキ	6,814	6	イスノキ	ガジュマル類	ホルトノキ	ホルトノキ	ホルトノキ	モモタマナ
6	フクギ	6,770	6	ホルトノキ	ホルトノキ	イスノキ	モモタマナ	モモタマナ	ホルトノキ
7	リュウキュウマツ	6,162	5	イスノキ	ガジュマル類	ガジュマル類	イスノキ	イスノキ	ガジュマル
8	ホルトノキ	5,880	5	ガジュマル	アカギ	クロキ	ガジュマル類	ガジュマル	イスノキ
9	モッコク	5,749	5	トックリヤシモドキ	トックリヤシモドキ	ブーゲンビレア	アカギ	アカギ	アカギ
10	イスノキ	4,903	4	アカギ	サクラ類	ハウオウボク	ハウオウボク	ハウオウボク	ハウオウボク
総本数	117,041			164,605	219,742	257,384	251,480	262,822	257,179
上位5種	45%			45%	47%	42%	45%	45%	46%
上位10種	70%			67%	67%	62%	65%	65%	65%

順位	2022(令和4)年		
	樹種名	本数	割合
1	フクギ	40,211	16
2	リュウキュウマツ	30,607	12
3	リュウキュウマツ	26,281	10
4	テリハボク	15,844	6
5	モモタマナ	12,347	5
6	ホルトノキ	10,435	4
7	ガジュマル	9,264	4
8	イスノキ	8,604	3
9	アカギ	7,997	3
10	ハウオウボク	6,593	3
総本数	253,947		
上位5種	49%		
上位10種	66%		

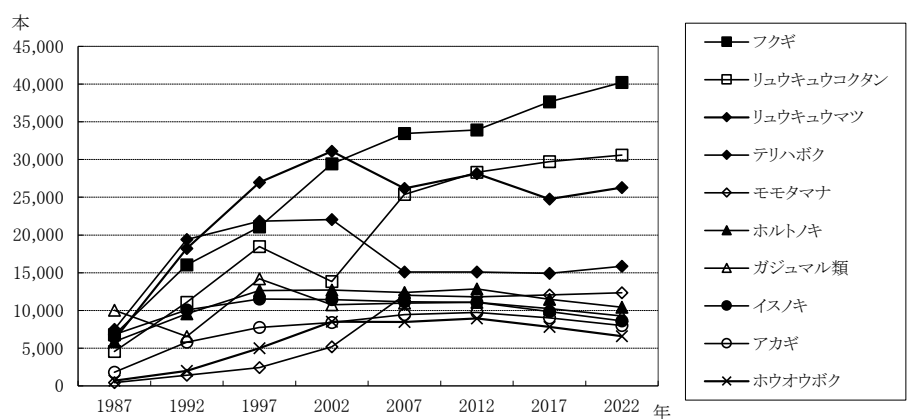


図-2.17 主要樹種本数の経年変化(沖縄)

2.3.3 樹木タイプの推移

全国の樹木タイプの構成比の推移を図-2.18に示した。1992年から1997年に落葉広葉樹の割合(約64%)が減少した一方、常緑広葉樹の割合(約26%)が増加したが、その後はあまり変化がみられない。

地域別では、常緑広葉樹の割合が大きく異なり、西の地域ほどその割合が高い(図-2.19)。使用割合の経年的な推移の変化はほとんどないが、沖縄では6割前後の高い割合を示していたものが今回は7割弱まで増加した。西日本の近畿、中国、四国、九州も常緑広葉樹が3割を超えて全国(2割程度)を上まわった。また、中部、関東で2割程度、北陸で1割程度、北海道、東北で1割以下となっており、それぞれの地域の気候に適応した樹種が継続して選択されていることが伺える。

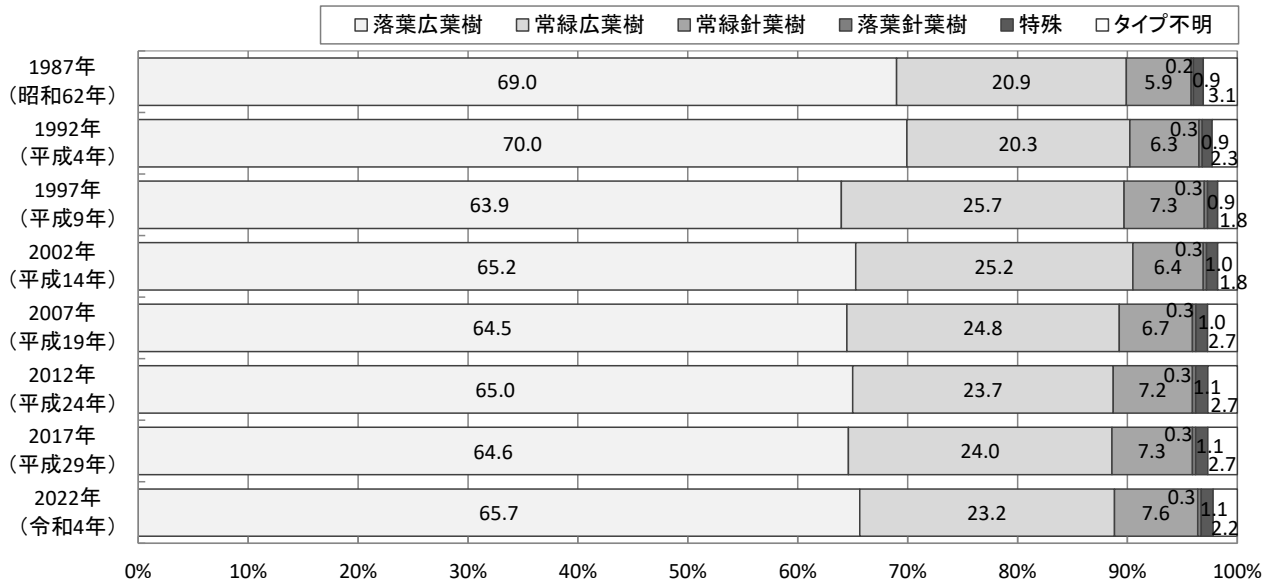


図-2.18 全国の樹木タイプの変化

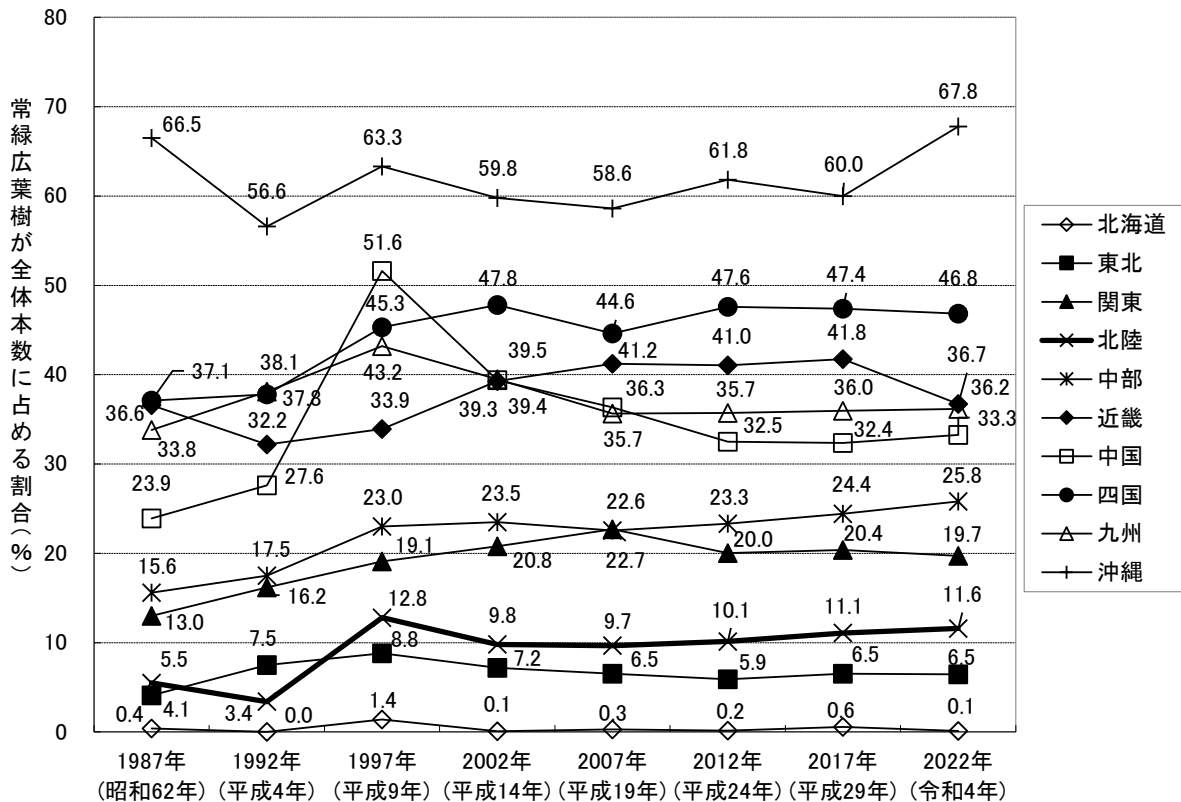


図-2.19 常緑広葉樹が全本数に占める割合の推移

2.4 今後の課題

国土交通省、都道府県、市町村、地方道路公社が管理する全国の高木本数は、1987年に約371万本であったものが2002年には約679万本と15年間に約1.8倍に増加したものの、2012年までの10年間は横ばい傾向となり、さらに2022年までの10年間では減少傾向となった（2002年のピーク時から約50万本の減少）。

街路樹（高木）の生育空間は、道路内という制限があるにもかかわらず生育空間を超えて大きく成長する樹種が植栽されたために、大径木化や過密化による道路交通への支障や、生育空間外に大きくはみ出した枝葉を強剪定することによる樹勢衰退や景観悪化などの問題が発生し、これに対応するための伐採撤去が行われたことも減少した要因として考えられた。また、根系についても地上部同様に地下空間で伸長・肥大成長することで、根上りによる歩行空間への支障が発生し、その対策の必要性も今後増加していくと想定される。さらに、植栽時から半世紀程度経過した都市部では、周辺の土地利用が大きく変化していることで道路本体の再構築や街路樹の整備方針を転換するなどの再考が求められる場合も多くなると考えられる。道路の良好な景観の形成や沿道の快適な生活環境の創出、また地球温暖化対策としてのカーボンニュートラルの観点からも道路緑化の推進は重要であり、今後は新規植栽の他に維持管理、樹種転換を含めた更新の重要性が高まっていくと予想される。

今後も全国の道路緑化についての基礎的な調査を継続し、得られた情報を整理・公開していくことで、道路緑化の整備事業に活用できる基礎データとして蓄積する必要がある。